

【改定の背景】

教員及び生徒会役員へのアンケートをもとに、スカートの生徒が必ずハイソックスにする必要はないのではないかと考えました。

ただし、印旛明誠高校開校の際に制服に込められた思いを尊重して、正装とする日は学校指定のハイソックスとしました。

それに伴い、生徒手帳に記載してある「靴下」の項目も変更しました。

<現行> スラックスの制服は派手でないもの、スカートの制服は紺の指定ハイソックスを着用する。

<改定後> 黒か紺かグレーでくるぶしが出ないもの。

スカートの制服は、正装とする日は紺の指定ハイソックスを着用する。

【理由と根拠】

スラックスの制服とスカートの制服とで靴下の規程を分けるべきではないと考え、統一しました。

また、「派手でないもの」という表現はあいまいなため、目安を設定しました。

「靴下は黒・紺・グレーでくるぶしが出ないソックス」とした根拠は、まず学校で制服を指定している理由の一つが、社会人になった時のスーツや制服を着こなす準備であるため、ビジネスシーンでの靴下のマナーに合わせることを妥当だと考えました。

ビジネスシーンにおいて、靴下は「スーツに合わせること」が基本とされています。一般的なスーツは、黒・紺・グレーなど暗めの色になるので、それに合うような靴下の色を選ぶのが適していると言われています。そのため色は「黒・紺・グレー」を目安としました。悪目立ちする靴下はマナーとして良くありませんので、白い靴下や柄物の靴下はNGとされています。

また、素肌が見えることもビジネスシーンではマナー違反となります。足首やくるぶしまでのスニーカーソックスなどでは足首やすねが見えてしまうため、NGとなります。ひざ下の4分の3くらいまである長めの靴下が良いとされていますが、体育も含め学校生活では不便だと考え、長さは「くるぶしが出ない」を目安にしました。

また、男性・女性という分け方をした場合、女性はスカートでもパンツスーツでも必ずストッキングがマナーであり、靴下はNGとされています。これをスカートの制服に当てはめるのは妥当ではないと判断し、男・女やスラックス・スカートといった区別をせずに規程を統一しました。